

## 全国訪問教育研究会

## 第28回全国大会 開催要項

2015年4月20日

## ■大会実行委員長あいさつ■

## 「教育の原点としての訪問教育」

ようこそ京都にお越し下さり、ありがとうございます。京都では過去に2回全国大会を実施し、今回で3回目の全訪研京都大会となります。しかし、今回は今までの全国大会とは少し意味が違うかもしれません。これまでの全国大会は、府県単位の地方研究会が主体となって行ってきましたが、今回の全国大会は府県単位ではなく、近畿という近隣の地域で組織された近畿訪問教育研究会が、全国大会の実行委員会を立ち上げての大会となります。これまで近訪研は、府県の枠を超えて、近隣の地域と協力して互いの府県の特色や課題を持ち寄りながら、地道にコツコツと交流を深めてきました。近隣の地域が協力し合って研究を積み上げていくような広がりのある研究会が、今後も全国へ波及することを願っています。近畿のメンバーも今回の全国大会を期に、一層近隣の地域とのつながり深めることができればと思います。

私自身も大学で支援教育を学び、ちょうど卒業の年が1979年の養護学校義務化の年でした。大学を出たての若い私が、教員採用と同時に訪問教育の教員となり、12年間、京都市の訪問教育を担当してきました。その中で、東京の御子柴先生を中心として、全国の訪問教育研究会を作ろうという呼びかけがありました。私も準備会の一員として東京の宿に泊まり、これからの訪問教育のあり方について熱い思いを語り合ったことが昨日のこのことのようにです。訪問教育は、ややもすると孤立しがちな教育形態になってしまうことから、ことさら研究会を作って交流していこうという思いは今も変わらないと思います。なおかつ、今日まで全訪研の脈々とした流れが途絶えることがなかったのも、この教育を必要とする子どもたちがいるという、子どもたちの現実と事実があるからではないでしょうか。子どもたちや御家族から教わり続ける訪問教育だからこそ、このように長く続いてきたのだと思います。

昨年12月に、以前担任をしていた子どもが32歳で、突然、天国に召されました。知らせを聞いて、一瞬、まさかと思いました。その御家族は、子どもの命を真ん中に据えて、三つの命を一つにして生活をしているような御家族でした。しかし、これが現実です。私も担任した子どもを何人か見送ってきました。「生まれてきてよかった」と思って欲しいと願う中で、子どもたちの生に向き合うとき、この教育に理屈はいらないと思っています。子どもを抱きながら、ひなたぼっこをした日の心地よさが忘れられません。先生は、子どもたちに寄り添うことがすべてで、逆に何かの時は、子どもが先生の傍らに来てもらえるような先生になりたいと思っていました。人がいかに生きるのか、命との対話の中でこの教育が進んでいくのだと思います。それが教育の原点といわれるゆえんではないでしょうか。私にとっても、今も訪問教育は教育の原点として生き続けています。

3日間ですが、家庭や病院、施設で待っている子どもやご家族のために、少しでも心豊かな研究会になればと思っています。近畿訪問教育研究会のメンバーも、一人でも多くの方に参加していただきたいとの思いを持って準備をして参りました。至らぬ点多々あるかとは思いますが、ご容赦いただきますようお願いいたします。参加されました先生方、ひとりひとりにとって、明日からの教育活動の糧となりますようにと願ってやみません。

第28回全国大会実行委員長 渡辺 実  
(花園大学 社会福祉学部 臨床心理学科 教授)

## ■大会テーマ■

「学校・地域に根ざした訪問教育を進めよう ～ひとりじゃない！ つながれば見えてくる 明日の一步」

■開催日時■ 2015年7月29日(水)～31日(金) 開会13時00分(開場12時)

## ■会場■

メルパルク京都(〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13 TEL075-352-7444)  
キャンパスプラザ京都(〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939 TEL075-353-9111)  
(※2ヶ所とも京都駅から徒歩5分です。使用会場の詳細は、次ページ以降の日程、内容をご参照ください。)

■主催■ 全国訪問教育研究会 近畿訪問教育研究会

■後援■

全国特別支援教育推進連盟・社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会・全国病弱教育研究会  
 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク  
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・NPO法人医療的ケアネット

(※以下は申請中)

文部科学省・厚生労働省

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会・全国特別支援学校知的障害教育校長会

全国特別支援学校病弱教育校長会・全国訪問教育親の会

京都府教育委員会・京都市教育委員会

■大会日程■

1日目(7/29)		2日目(7/30)		3日目(7/31)	
会場：メルパルク京都		キャンパスプラザ京都 メルパルク京都		メルパルク京都	
12:00	開場・受付開始	9:00	分科会準備、打ち合わせ	9:00	ワークショップ準備
13:00	開会行事・基調報告 (~13:50)	9:50	分科会開始	9:20	ワークショップ (~11:00)
13:55	開催地からの報告 (~14:55)	12:10	昼食	11:15	全体会(閉会行事)
15:15	大会記念講演	13:50	分科会	11:45	大会終了
16:45	記念講演終了、諸連絡	16:20	分科会終了		
17:10	全訪研総会(~17:50)	16:30	共同研究者・役員懇談 (~17:30)		
		18:00	夕食交流会(~20:00)		

※今大会では、親の会懇談会に代えて、特別分科会「保護者とともに学ぶ」を7/30午後に行います。

※2日目昼の弁当手配はありませんので、昼食は持参するか近隣の飲食店をご利用ください。

■内容■

(1) 開会行事・基調報告 (7/29 13:00~13:50 メルパルク京都)

(2) 開催地からの報告 (7/29 13:55~14:55 メルパルク京都)

現地からの報告では近畿の2府4県で構成される「近畿訪問教育研究会(近訪研)」より、近畿ブロックの府・県・市の代表が様々な訪問教育の取り組みや特色を発信します。同じ近畿でも制度や実態は様々。そんな情報交換の場でもある近訪研の会議は、関西らしく和気あいあいとした雰囲気で行っています。いつもの会議の雰囲気も感じてもらいたいと思います。

(3) 大会記念講演 (7/29 15:15~16:45 メルパルク京都)

演題：「前例がなければつくればいい」

講師：青野 浩美(ソプラノ)

<講師紹介>

■経歴

京都市生まれ。

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻声楽コース卒業。

同志社女子大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。

京都音楽家クラブ新人演奏会、京都芸術祭「デビューコンサート」、同志社女子大学での音楽礼拝、「青野浩美リサイタルコンサートLa Preghiera 祈り」など、多数出演。

第16回ありのまま自立奨励賞受賞。

高橋道子氏に師事。

■著書 『わたし“前例”をつくります 気管切開をした声楽家の挑戦』

<講演要旨>

23歳の12月27日、突然身体が動かなくなり、それまでの生活が一変しました。半年後、車いすでの生活にも慣れたころ、無呼吸発作が襲います。人工呼吸器を使っての在宅生活のため、気管切開を勧められました。しかし、私は大学で声楽を学んでいた身。気管切開をすれば声が出なくなる…。悩みました。たくさんたくさん、悩みました。そして、決断しました——。前例がなければ作ればよい!

あきらめず、自身の障害と向き合い、闘い続ける歌姫が、声を取り戻し、歌い、語ります。

(4) 全訪研総会 (7/29 17:10~17:50 メルパルク京都)

全訪研の昨年度の活動、今後の活動方針等について総会を行います。

- ①活動報告 (2014年8月~2015年7月の全訪研の活動内容)
- ②2014年度決算報告、会計監査      ③2015年度予算      ④活動方針
- ⑤規約      ⑥役員候補      ⑦事務局員委嘱

(5) 分科会 (7/30 9:50~12:10、13:50~16:20 ①~⑨キャンパスプラザ京都、⑩メルパルク京都)

※①~⑥分科会は午前・午後とも行います。⑦⑧は午前のみ、⑨⑩は午後のみ行います。時間にご注意ください。

分科会名	分科会のねらい (◆共同研究者)	
①健康・身体づくり 1 (障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対する関わり)	障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対する関わりについて考えます。呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について講義・実践を交えながら交流しましょう。(※午前はレポート報告、午後は実技講座を行う予定です) ◆花井 丈夫 (横浜療育医療センター 理学療法士)	
②健康・身体づくり 2 (姿勢づくりや子どもの活動を引き出す関わり)	姿勢づくりや子どもの活動を引き出す関わりについて考えます。呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について講義・実践を交えながら交流しましょう。(※午前はレポート報告、午後は実技講座を行う予定です) ◆竹脇 真悟 (埼玉県立宮代特別支援学校) ◆桑原 輝男 (東京都立府中けやきの森学園)	
③コミュニケーション 1 (AACを用いたコミュニケーション)	重度・重複障害児のコミュニケーションを育てるための援助や配慮について、レポートを元に訪問での実践内容を交流しましょう。 小中学部の訪問生だけでなく、過年度生など青年期に入っている生徒についても、「コミュニケーション」という視点から幅広く討議をしましょう。	子どもたちの表出や表現を援助する手段としてAACが注目されています。そのような実践から学びましょう。AAC:Augmentative and Alternative Communication (拡大・代替コミュニケーション) ◆渡辺 実 (花園大学) ◆吉川 一義 (金沢大学) ◆荻田 知則 (愛媛大学)
④コミュニケーション 2 (重症児のコミュニケーション)		「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちな子どもたちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合しましょう。 ◆川住 隆一 (東北大学大学院)
⑤あそび・文化と授業づくり	障害が重く、限られた環境条件の中での「あそび」は、どの教師も親も悩むところだと思います。貴重な経験や工夫を交流しあって共有の財産としましょう。訪問での実践内容、また、青年期に入っている生徒への実践についても、「あそび」から発展した「文化」という視点から幅広く討議しましょう。 <b>☆参加される方は、教材を持ってきてください。分科会内で教材紹介を行います。</b> ◆木下 博美 (全訪研副会長・京都府立舞鶴支援学校)	
⑥地域での生活支援と教育 ー医療・教育・生活	「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、子どもたちの教育と生活を豊かにする地域支援のネットワークづくりが大切になっています。 医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたちから内部疾患を持つ子どもたちの地域での生活など、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と生活を考えていきましょう。 ◆井山 信久 (ライフアシストセンター代表) ◆下川 和洋 (全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぽーと研究所理事)	

<p>※⑦～⑩分科会は、開催時間にご注意ください。                  「施設内の教育」分科会、「病気療養児の教育」分科会は、午前のみ（9:50～12:10）です。                  「教育課程」分科会、特別分科会「保護者ととともに学ぶ」は、午後のみ（13:50～16:20）です。</p>		
午前 のみ	⑦施設内の教育	分教室や施設内学級、施設訪問等の教育内容について、具体的事例を通じて実践を深めていきましょう。また、就学免除者等不就学者の教育保障について関係者との連携を大切にしながら進み始めている実践を交流しましょう。 ◆河合 隆平（金沢大学）
午前 のみ	⑧病気療養児の教育	“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内訪問教育の実践を深めていきましょう。 ◆猪狩 恵美子（福岡女学院大学）
午後 のみ	⑨教育課程 （スクーリング、行事、 教育条件等）	毎回の授業やスクーリング・交流、行事の参加を教育課程としてどのように位置づけたらよいでしょう。各学校での取り組みや悩みを交流しながら、訪問学級の教育課程づくりと学校づくりをつなげて議論していきます。 ◆猪狩 恵美子（福岡女学院大学） ◆河合 隆平（金沢大学）
午後 のみ	⑩特別分科会 「保護者ととともに学ぶ」	訪問教育の親の願いは、在学中の学習保障にとどまらず、卒業後の生活や社会とのつながりへと広がってきています。また、それを支える医療を含むネットワーク作りの課題が極めて重要になっています。その中の一番の問題は、コーディネートするキーパーソンが定まらないことにあります。それは、訪問教育の保護者と重症児の保護者とが共通の課題として悩んでおられることであり、各地域によって制度上の大きな違いが生まれる理由の1つとなっています。普通に暮らし、普通に社会の中で生きていけるように、近畿、そして全国の保護者のみなさんと支援されている関係者のみなさんが、一人でも多く参加していただいて、情報を交流し合い一緒に考えていきましょう。 ◆岩井 正一（愛媛県重症心身障害児（者）を守る会 会長）

●分科会レポートの申込みについて

分科会でのレポート発表を希望される方は、次の①～⑤について、**6月10日までにレポート担当宛に連絡をお願いします。**レポート担当者より、印刷部数やレポート送付先を連絡します。

- ①分科会名・氏名・学校名または所属先名      ②自宅住所と電話番号(FAXの有無)・メールアドレス
- ③レポートタイトル      ④使用する視聴覚機器(DVD、パソコン等)
- ⑤レポートの配布などに関して、個人情報保護の配慮が必要かどうか

<レポート担当> 全国訪問教育研究会 全国事務局 栗山 弘子  
 FAX 03-5330-8857 h-kuri@peach.ocn.ne.jp

●レポート発表に関して

- ・大会実行委員会で用意できる視聴覚機器は、原則として、プロジェクターとスクリーンです。パソコン、DVD、その他の機器を使用する場合は、各自でご用意ください。音声再生が必要な場合、小型スピーカーや音声再生用の接続ケーブルの用意をお願いします。
- ・発表されたレポートは、全訪研研究集録「訪問教育研究第28集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼を受けた際はよろしくをお願いします。

●大会参加者へのレポートの配布について

- ・各レポート配布はレポーターの判断を尊重します。個人情報保護の観点から、原則としては発表される分科会の中のみとなります。
- ・各分科会の内容は、2016年1月発行の「訪問教育研究第28集」（1000円+送料）に掲載されます。大会の会場でも予約を承りますので、他の分科会のレポートを知りたい方はご利用ください。

(6) 特別分科会「保護者ととともに学ぶ」 (7/30 13:50～16:20 メルパルク京都)

訪問教育の親の願いは、在学中の学習保障にとどまらず、卒業後の生活や社会とのつながりへと広がってきています。また、それを支える医療を含むネットワーク作りの課題が極めて重要になっています。その中の一番の問題は、コーディネートするキーパーソンが定まらないことにあります。それは、訪問教育の保護者と重症児の保護者とが共通の課題として悩んでおられることであり、各地域によって制度上の大きな違いが生まれる理由の1つとなっています。普通に暮らし、普通に社会の中で生きていけるように、近畿、そして全国の保護者のみなさんと支援されている関係者のみなさんが、一人でも多く参加していただいて、情報を交流し合い一緒に考えていきましょう。愛媛県重症心身障害児（者）を守る会会長の岩井正一さんにアドバイザーとして参加していただきます。

(7) 夕食交流会 (7/30 18:00~20:00 メルパルク京都)

交流会は、全国のみなさんとごつくばらんに話し、つながる場です。ここでは日頃の奮闘をねぎらい、歌や、ゲームを用意します。お互いの都道府県での苦労話、感動を話したりして、分科会では聞けないとおきの教育の話が聞けるかも知れませんね。ベテランの先生や、OBとも気軽に話ができて、歌や、ゲームでは、日々の実践に即、使えるものに会えるかもしれません。どうぞ、たくさん参加してください。

(8) ワークショップ (7/31 9:20~11:00 メルパルク京都)

	ワークショップ名	講師	内容
A	訪問なんでも情報交換会	岡田敏男 (全訪研副会長) 猪狩恵美子 (福岡女学院大学・全訪研前会長)	他県、他校の訪問教育の様子を知りたい。また、自分の学校の訪問教育について知ってほしい、これでいいのか等、様々な悩みについて語り合ひましょう。きっと、明日から、9月からの活力になると思います。
B	重症児の発達とコミュニケーション	高木 尚 (全訪研会長)	重症児の意思表示をどう捉えていくのか、関係の中でどんな力が育っていくのか、一緒に考えてみませんか。
C	授業づくり	木下博美 (全訪研副会長)	表出の少ない重度の訪問の子どもたち。どうすれば、その心に触れることができるのか？どんな授業ができるのか？悩みながらの実践をお伝えします。
D	医療的ケアの動向	下川和洋 (全訪研 全国事務局・NPO 法人地域ケアさぼ ーと研究所理事)	2011年に「社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正」が行われ、介護福祉士の他に介護職員等(特別支援学校の教員等も含む)の非医療職が行う痰の吸引等が法律に位置づけられました。2012年4月1日の法施行により、自治体間での取り組みに温度差が出ています。ここでは、国の制度設計や実施上の課題について学習します。
E	音楽療法をヒントに	柿本理津子 (日本 音楽療法学会 認定音楽療法士、 臨床音楽研究室 ルート主宰)	子どもたちはもとより、失語症の方々、お年寄りの方々対象のセッションを中心に活動中です。ご本人だけでなく、保護者、ご家族の心にも寄り添い、音や音楽を通して心通いあう場を提供してこられた方です。障がいの個性について、きめ細やかな配慮に基づき、生きた音を模索しながらの体験は現在、われわれが訪問学級で担当している子どもたちもマッチし、可能性を引き出していけるきっかけとなるでしょう。
F	スイッチの製作	大阪支援教育コン ピュータ研究会	タブレットタッチャー、外部スイッチ、BDアダプターの製作実習をします。使用場面やスイッチを製作する際の道具や部品の調達方法などもお話したいと思います。(※材料費1,000円程度を当日、集めます。) ★定員20名(先着順です。お申込の際、Fをお選びの場合は、申込書に第2希望までご記入ください。)

(9) 全体会 (閉会行事) (7/31 11:15~11:45 メルパルク京都)

大会最終日の全体会です。以下の内容を予定しています。

- ・実行委員長あいさつ
- ・大会宣言
- ・次回開催地への引き継ぎ
- ・閉会あいさつ
- ・歌「小さいのち」

■わくわくクラブ(保育)と緊急時の体制について■

実行委員会では、子どもさんや障害があるお子さん連れでも、保護者の方に参加していただきやすいように、わくわくクラブ(保育)を設けます。

●時間帯 次の4つの時間帯でわくわくクラブを実施します。(集合場所は「メルパルク京都」内です。)

- (a) 7月29日(水) 13:00~17:50
- (b) 7月30日(木) 9:50~12:20
- (c) 7月30日(木) 13:50~16:30
- (d) 7月31日(金) 9:20~11:45

●緊急時の体制と医療機関(緊急時には、会場近くの病院での対応をお願いしています。)

医療法人財団 康生会 武田病院

京都市下京区塩小路西洞院東入東塩小路町841-5

TEL 075-361-1351

●わくわくクラブ（保育）申込み

- ・大会参加申込書の「わくわくクラブ（保育）」の欄にご記入ください。
- ・申込み受け付け後、お子さんの生活ケアや医療的ケアの様子を知るために、担当者から連絡させていただきますので、よろしくお願ひします。
- ・クラブ参加費用、おやつ代や見学代等の費用をいただきます。
- ・大会当日に、保険証または、そのコピーをご持参ください。

■参加費・宿泊費■

①大会参加費

・一般	3日参加：7,500円	2日参加：5,000円	1日参加：2,500円
・全訪研会員	3日参加：6,000円	2日参加：4,000円	1日参加：2,000円
・保護者・学生	3日参加：3,000円	2日参加：2,000円	1日参加：1,000円

※参加費に加えて、お一人につき、500円の手数料をいただきます。（事前申込み、当日申込みのどちらも500円の手数料がかかります。）

※会員と一般は費用が異なりますので、ご注意ください。参加申込みと同時に会員申込みをすることも可能です。参加申込書の「入会を申し込む」の欄に○をつけてください。（会員参加費になります。）

入会には年会費4,000円が別途必要です。参加費と一緒に支払ってください。

②食事関係

夕食交流会 5,500円（7月30日 「メルパルク京都」で行います。）

★今回は、2日目（7/30）昼の弁当の用意は、ありません。各自でご用意ください。

③宿泊費（※いずれも、1泊朝食付きの値段です。）

①京都ガーデンホテル	シングル	8,500円	
②ダイワロイネットホテル京都八条口	シングル	10,800円	ツイン 9,800円
③京都第二タワーホテル	シングル	12,500円	ツイン 9,800円
④ホテルユニゾ四條烏丸	シングル	12,900円	ツイン 11,900円

■申込み方法■

(1) 参加者1人につき1枚「参加申込書」にご記入の上、FAXまたは郵送で、下記送付先へお送りください。  
参加申込み締切は、6月20日（土）です。お早目に申込みください。特に、宿泊希望がある場合は、締切厳守をお願いします。（申込みが遅くなる場合は、ご連絡ください。）

※参加申込者が複数の場合は、恐れ入りますが、「参加申込書」用紙をコピーしてお使いください。

※手話通訳が必要な方は、参加申込書の特記事項欄にその旨をご記入ください。

※宿泊がご不用の場合も、参加申し込みをしてください。

【参加申込書の送付先・問い合わせ先】（申込みは、FAXまたは郵送でお願いします。）

〒600-8492 京都市下京区四条通新町東入る月鉾町62-6階	
名鉄観光サービス(株)京都支店 (担当：仲 崇司 (なか たかし))	
TEL：075-255-2211	080-1551-7526
FAX：075-255-8511	メール：takashi.naka@mwt.co.jp
<u>大会参加申込み締切 6月20日（土）</u>	

(2) 申込み受付後、予約確認書・請求書をお送りします。

(3) お送りした予約確認書・請求書の内容をご確認の上、参加費・宿泊費等の合計金額を指定口座までお振込みください。

<申込み後の取り消しについて>

ご宿泊の取り消しにつきましては、1件1名につき下記の取り消し料金を申し受けます。

ご利用の	14日前～4日前	3日前～2日前	前日	当日12時まで	無連絡不泊
当該料金の	20%	30%	50%	80%	100%

日数は宿泊初日から起算させていただきます。

※「大会参加費」については返金できません。代わりに、大会記録が掲載された「訪問教育研究 第28集」を2016年1月に送付致しますので、ご了承下さい。

■資料の請求について■

大会に参加できないが大会記録がほしいという場合は、2016年1月に発行される「訪問教育研究 第28集」を送付致します。(送付は来年の1月です。)大会の記念講演や分科会まとめ、その他、訪問教育に関する資料が掲載されています。下記の郵便口座に資料代(送料込み)として、**1200円**の入金をお願いします。郵便振替用紙の「通信欄」に「資料請求代」と明記して下さい。

【資料請求の振込先】 郵便振替口座番号「00130-2-95934 全国訪問教育研究会」

(※全訪研会員には、2016年1月に機関紙「こんにちは」と一緒に「訪問教育研究 第28集」を送付しますので、資料請求のみの申込みはしないでください。)

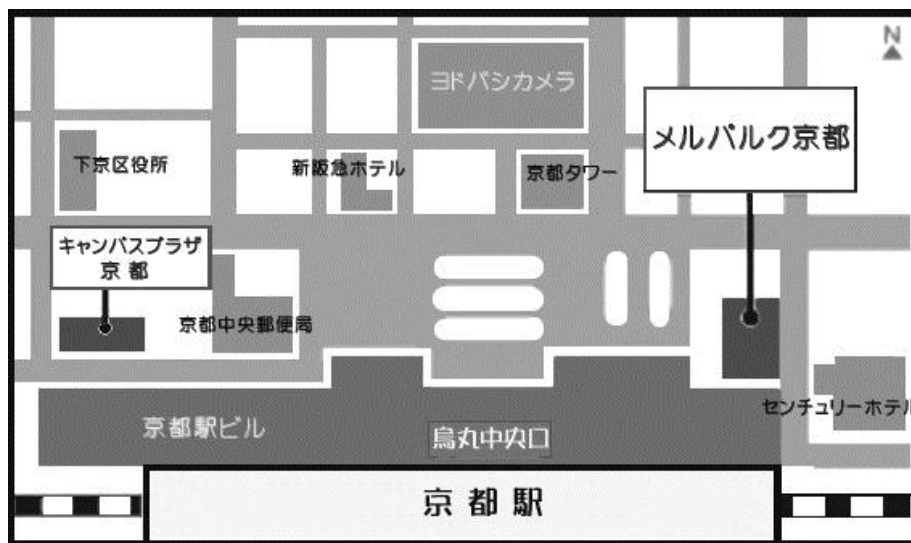
■第7次全国調査冊子の申込み

全国訪問教育研究会では、4年ごとに訪問教育に関する全国調査を実施しています。昨年の大会で報告した2013年度調査結果の冊子を500円で販売します。ご希望の方は、参加申込書の「第7次全国調査冊子」の欄に○をつけてください。代金は、参加費と一緒にお支払いください。(会場で冊子をお渡しします。)

■「訪問教育研究 第27集」の申込み

昨年の大会の記念講演や分科会の内容、訪問教育に関する資料が掲載されています。1冊1,000円です。購入希望の方は、参加申込書の「全訪研 第27集冊子」の欄に○をつけてください。代金は、参加費と一緒にお支払いください。(会場で冊子をお渡しします。)

■会場周辺図■



■問い合わせ先■

<全訪研会長>	: 高木 尚	Tel 090-5330-6275	takagi@snow.odn.ne.jp
<全国事務局長>	: 長 正晴	Tel&Fax 049-231-6941	chou_masaharu@yahoo.co.jp

<参加申し込み・宿泊関係>名鉄観光サービス(株) 京都支店 (担当: 仲 崇司)

Tel 075-255-2211 080-1551-7526 Fax 075-255-8511 takashi.naka@mwt.co.jp

<大会全般>長島 康代 (大会事務局長)

naga1004jp@yahoo.co.jp (なるべく、メールでご連絡ください。)

Fax&Tel (20時以降) 075-331-6793

○全訪研ホームページ <http://zenhoukenn.web.fc2.com/>

(こちらからも開催要項、参加申込書のダウンロードができます。

全訪研に関するいろいろな情報も見られますので、ぜひ、ご覧ください。)